

## 教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
ホシイコ 洪伊杓	男	1976年	准教授	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	神学博士、文学博士	専門分野	神学、キリスト教学、キリスト教史学	
学歴	2002年	2月 延世大学神科大学神学科(卒業、神学士、B.T.)		
	2004年	2月 延世大学法科大学法学科(卒業、法学士、B.L.)		
	2006年	2月 延世大学連合神学大学院修士課程(卒業、神学修士、Th.M.)		
	2013年	3月 京都大学大学院文学研究科修士課程(修了、文学修士、M.A.)		
	2014年	2月 延世大学大学院博士課程(卒業、神学博士、Ph.D.)		
	2020年	3月 京都大学大学院文学研究科博士課程(修了、文学博士、Ph.D.)		
実務経験	2007年	6月 基督教大韓監理会(韓国メソジスト教会)トンニョ教会伝道師		
	2009年	4月 基督教大韓監理会(韓国メソジスト教会)宣教師派遣 →日本基督教団宣教師承認		
	2009年	4月 日本基督教団兵庫教区・甲陽園教会(担任牧師)		
	2015年	4月 日本基督教団京都教区・丹後宮津教会(主任牧師、2017年3月まで)		
	2016年	4月 京都大学文学部哲学基礎文化学系(非常勤講師、2017年3月まで)		
	2016年	4月 明治学院大学キリスト教研究所(協力研究員、2020年3月まで)		
	2019年	4月 明治学院大学(非常勤講師、2020年3月まで)		
	2020年	4月 山梨英和大学人間文化学部(准教授・宗教主任、現職)		
受賞歴	2006年	2月27日 「最優秀論文賞」、「アンダーウッドの『教会と国家』認識研究」韓国神学大学協議会(KAATS)		
	2015年	12月29日 「韓国出版学術賞」(韓国出版文化協会・韓国出版研究所が授賞)		
	2018年	12月20日 「世宗優秀学術図書」(大韓民国(政府)文化体育観光部が選定、翻訳書)		
所属学会	2006年	3月 韓国教会史学会(韓国、한국교회사학회) 会員		
	2006年	9月 韓国基督教歴史学会(韓国、한국기독교역사학회)、会員(理事)		
	2012年	3月 日本基督教学会(日本) 会員		
	2012年	3月 京都大学基督教学会(日本) 会員		
	2012年	3月 「アジア・キリスト教・多元性」研究会(日本)		
	2013年	9月 キリスト教史学会(日本) 会員		
特免資格等	2014年	4月21日 自動車運転 免許(韓国)		
	2017年	8月21日 自動車運転 免許(日本)		
	2009年	4月22日 牧 師(基督教大韓監理会・正会員)		
	2009年	4月26日 宣 教 師(基督教大韓監理会・日本キリスト教団承認)		
e-mail	hong@yamanashi-eiwa.ac.jp			

## 目 次

### ○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

### ○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

### ○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

### ○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

### ○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、  
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、  
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

## 教育業績

教育理念、方針、方法	<p>何よりも建学の精神「敬神・愛人・自修」を基盤とするキリスト教教育に専念する。キリスト教関係科目における講義だけではなく、その他あらゆる教育活動の場においてキリスト教精神に基づいた取り組みを行っていききたい。</p> <p>具体的には、教育の一環として聖書の語る「奉仕」活動や、講義における聖書やキリスト教文化などの学習に加え、近隣のキリスト教会、キリスト教関係施設を中心とした地域社会との連携による実践的な教育現場を学生たちに提供することで、机上の学びに留まらない活動としての教育を積極的に取り入れていきたい。大人数の授業では、講義を中心とする内容が中心になることもあるが、少人数の場合にはアクティブ・ラーニングを用いるなど、相手の意見に耳を傾けることのできる人材、相手に自分の意見を誠実に述べることのできる人材育成に励みたい。</p> <p>また、日韓関係をはじめアジア的な観点に基づいて、山梨英和大学の学生たちが隣国への理解、さらには国際理解をより深め、開かれた討論と相互理解を模索していく国際的な感覚と視野を持つことができるような教育及び指導を考えている。</p> <p>山梨英和大学の学生たちが社会に出てゆくにあたって、キリスト教(聖書)の教えの核心をとらえた、この社会における理想的な人格を形成し羽ばたいていけるような指導を行う。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>a. キリスト教主義大学として山梨英和大学が最も基本的な必修科目としている「キリスト教概論」の授業は150-200名の大型講義であるので、より効果的な教授法を備えるため、動画制作、レジュメの開発、興味を誘発する資料の編集などに取り組む。</p> <p>b. 日本基督教団東海教区山梨分区など地域の諸教会との交流、そして地域のキリスト教と連なる社会福祉機関(YMCA, YWCA, フードバンク山梨など)との連携を通して、地域のキリスト教文化や歴史、現状ともコミュニケーションできる学びを目指して指導する。韓国や台湾、中国、北米など隣国のキリスト教団体や学校、組織との交流も活性化することによって世界宗教であるキリスト教の魅力を楽しむことができるように企画する。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>聖書及び日本基督教団出版局などから出版されているキリスト教基礎の教科書などを参考にしながら独自の配布物を作成し、授業で用いる。その際、聖書が私たちに語りかけていることが何なのかを自分なりに整理して学生たちに伝えるよう努める。重点を置いた点は、聖書を通して自分自身を見つめなおすこと、そして自分の中にある先入観や偏見に気づき、新たな世界観に出会うことである。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p>
担当授業科目	キリスト教概論、宗教と思想、キリスト教と山梨英和、キリスト教と現代社会、日韓関係史、韓国語
代表的シラバス	<p>キリスト教概論1</p> <p>山梨英和大学はキリスト教学校であるため、必修科目として指定されている科目である。大学創立の背景や歴史、建学の精神について学び、キリスト教の根幹である「聖書」を用いて様々なテーマについて学ぶ。その中で、「聖書」やキリスト教をより理解しやすくするため映像や音楽などを用い、〈聖書的なものの考え方〉、〈聖書的思考〉が、現代におけるさまざまな課題をいかに解決するのか、関心の新たな探究のための手掛かりとする。</p> <p>「聖書」を真剣に学ぶことが、これからの人生にとってどのような意味を持つかに留意し、そのためにも「聖書」の言葉にできるだけたくさん触れ、その言葉によって生かされてきた人たちの生涯やエピソードも紹介する。</p>
教育改善活動	<p>2016年2月から1年間、京都大学が実施した「2016年度文学研究科プレFDプロジェクト事前研修会」参加。効果的な授業運営や教授法について研修。(京都大学文学部学長名義の修了書交付)</p> <p>2020年度、新型コロナウイルス事態によって遠隔授業が行われ、動画制作やPPTなどを活用した学生との円満なコミュニケーションをとるための多様な試み。</p>

教育能力に対する評価	(1) 学生による授業評価
	(2) 同僚教員等による授業評価

### 研究業績

研究の特徴	日本と韓国のキリスト教史、特に両国における欧米宣教師たちの伝道・教育活動と初期のキリスト教受容者の思想を考察して来ました。日韓関係史においては両国のキリスト教がいかに相互影響を与えたか、日韓の国家・民族の象徴が宗教の象徴とどのような関係を形成してきたかを究明する研究も行っています。
研究経歴	<p>2006年 延世大学大学院で「アンダーウッドの『教会と国家』認識」について研究し、修士論文を提出。</p> <p>2013年 京都大学大学院で「海老名弾正の神道理解」について研究し、修士論文を提出。</p> <p>2014年 延世大学大学院で「植民地期における韓国キリスト教の日本認識：『内地』概念を中心に」という研究を行い、博士論文を提出。</p> <p>2015年～2017年 日本基督教団信濃町教会研究助成によって「松山高吉の宗教及び神学思想と聖書翻訳の再評価」という研究を遂行、報告書を提出。</p> <p>2016年～ 定期刊行物の雑誌『キリスト教文化』に「シンボルから見る日韓の歴史と宗教文化」について連載し、単行本の出版を目標として研究を行っている。</p> <p>2020年 京都大学大学院で「海老名弾正の神道理解と社会思想形成」という研究を行い、博士論文を提出。</p>
研究実績	<p>(1) 著書 (著書)</p> <p>2006年4月16日『恵星教会25年史』(単著)、ソウル：基督教大韓監理会恵星教会</p> <p>2008年11月30日『大田第一教会100年史』(共著)、大田：基督教大韓監理会大田第一教会</p> <p>2011年8月15日『時代のように訪れる朝を待つ：「日韓併合」101年、キリスト者たちの対話』(共著)、東京：新教出版社 (pp.43-57. 担当)</p> <p>2011年8月15日『시대처럼 올 아침을 기다리며』(共著)、ソウル：大韓基督教書會 (pp.51-69. 担当)</p> <p>2015年6月25日『信仰の足跡を訪ねて：日本関東・関西のキリスト教遺跡』(共著)、ソウル：韓国基督教歴史研究所</p> <p>2015年8月30日人物で見る延世神学100年』(共著)、ソウル：延世大学神科大学同門会編、(アペンジェーラー(pp.32-66)、松本卓夫(pp.185-222)担当)</p> <p>2016年10月12日『アンダーウッドの最後のメッセージ：彼等は何を語ったのか』(共著)、ソウル：延世大学アンダーウッド記念事業会編、(第1部「アンダーウッドはどのように語った」pp.15-90. 担当)</p> <p>2020年9月25日『아시아 공동체와 평화 - 열가지 시선』(アジア共同体と平和：十個の視線)【共著】ソウル：図書出版 모시는 사람들(151-185.担当)</p> <p>2022年3月22日『동아시아 근대와 기독교』(東アジアの近代とキリスト教)【共著】ソウル：세상출판사(セチャン出版社)、洪伊杓、「近代日本の形成とキリスト教」の章((pp. 159-244. 担当)。 【韓国語】</p> <p>2022年8月29日、REPES Forum編『종교로 평화 만들기』(宗教で平和を創る)【共著】、図書出版(모시는 사람들)모시문서람、洪伊杓、「八紘一宇による平和概念の変容と受容—戦時下における韓国キリスト教界の態度を中心に」の章(pp.125-163.担当)【韓国語】</p> <p>(訳書)</p> <p>2012年11月20日、基督教思想編『原子力とわたしたちの未来 韓国キリスト教の視点から』(共訳)大阪：かんよう出版、(総389頁；pp.23-53、131-138、219-234、261-269、293-299. 担当、韓国語→日本語)</p>

研究実績	<p>2013年5月18日、賀川記念館編『일본협동조합의 아버지, 가가와 도요히코』(日本の協同組合の父、賀川豊彦)(単訳)ソウル: 다행 (総230頁、日本語→韓国語)</p> <p>2015年2月6日、林公著『아침독서의 이상과 실천』(朝の読書—その理念と実践)(共訳)ソウル: 행복한아침독서 (総231頁、pp.111-231. 担当 日本語→韓国語)</p> <p>2015年2月27日、深井智朗著『사상으로서의 편집자』(思想としての編集者: 現代ドイツ・プロテスタンティズムと出版史)(単訳)、ソウル: 한울 (総273頁、日本語→韓国語)</p> <p>2015年3月5日、南山宗教文化研究所編『기독교와 불교, 서로에게 배우나』(キリスト教は仏教から何を学べるか)(共訳)、ソウル: 정우서적、(総414頁 ; pp.125-208. 担当、日本語→韓国語)</p> <p>2018年2月26日、深井智朗著『신학을 다시 묻다』(神学の起源: 社会における機能)(単訳)ソウル: 비아 (総211頁、日本語→韓国語)</p> <p>2018年2月26日、Robert Schildgen著『가가와 도요히코 평전』(Tyohiko Kagawa : Aposle of Love and Social Justice)(共訳)ソウル: 信仰과知性社 (総566頁、pp.146-566. 担当、英語→韓国語)</p> <p>2018年12月26日、土井健司著『기독교를 다시 묻다』(キリスト教を問いなおす)(共訳)ソウル: 信仰과知性社 (総223頁、日本語→韓国語)</p> <p>(2) 学術論文</p> <p>※【査読】の有無明記</p> <p>2011年3月25日「W.R.ランバス宣教師と朝鮮半島」『関西学院史紀要』第17号、関西学院学院史編纂室</p> <p>2011年9月25日「アンダーウッド夫人狙撃事件の真相と意味」【査読あり】『韓国基督教와歴史』第35号、韓国基督教歴史研究所</p> <p>2013年3月25日「松本卓夫と朝鮮半島」『関西学院史紀要』第19号、関西学院学院史編纂室</p> <p>2013年3月25日「韓国プロテスタント・キリスト教史の叙述方法論的考察—諸史観の比較分析と研究傾向を中心に」『アジア・キリスト教・多元性』、アジアと宗教的多元性研究会、第11号</p> <p>2014年3月25日「海老名弾正の神道理解研究—神道の類型論的分析を中心に—」『アジア・キリスト教・多元性』第12号</p> <p>2014年12月「松山高吉と海老名弾正の神道理解に関する比較分析」【査読あり】『基督教学研究』第34号、京都大学基督教学会</p> <p>2015年3月「海老名弾正の『神道的キリスト教論争の再考察』」『アジア・キリスト教・多元性』第13号</p> <p>2015年7月「松山高吉と植村正久の関係形成過程とその意味」【査読あり】『キリスト教史学』第69集</p> <p>2015年9月1日「일본에서의 라투레트(K. S. Latourette) 인식과 수용과정」【査読あり】『韓國教會史學會誌』第41号</p> <p>2015年9月25日「일제하 한국 기독교의 ‘내지=일본’ 개념 수용과정 : 무단통치기를 중심으로」【査読あり】『韓国基督教와歴史』第43号、韓国基督教歴史研究所</p> <p>2016年3月「朝鮮半島における聖書翻訳再考察—キリスト教受容の立場を中心に」『アジア・キリスト教・多元性』第14号</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

研究 実 績	2016年3月「武断統治期(1910-1919)における韓国キリスト者の「内地=日本」認識」『アジア・キリスト教・多元性』第14号
	2016年2月「東アジアにおけるラトゥーレット(K. S. Latourette)の認識と受容過程 — 日・中・韓3国の比較を中心に —」【査読あり】『明治学院大学キリスト教研究所紀要 紀要』第48号
	2016年3月「高橋五郎の神道理解—『神道新論』・『諸教便覧』を中心に」【査読あり】『基督教学研究』第35号、京都大学基督教学会
	2016年9月「에비나 단조의 자유주의 신학과 神道 이해 - 한국 교회와의 관련성을 중심으로」『韓国 基督教와 歴史』第45号
	2017年2月【査読あり】「朝鮮伝道論をめぐる海老名弾正の『内地=日本』認識—柏木義円・吉野作造との比較を中心に—」【査読あり】『明治学院大学キリスト教研究所紀要』第49号
	2017年3月「松山高吉の伝統宗教理解—「神道・儒教・仏教」三教を中心に」『アジア・キリスト教・多元性』第15号
	2017年3月「文化統治期(1920-30)における韓国キリスト者の『内地=日本』認識」『アジア・キリスト教・多元性』第15号
	2018年1月「海老名弾正の「植民地民」理解—海老名弾正の『土人』と吉野作造・石川三四郎の『土民』の比較を中心に」【査読あり】『明治学院大学キリスト教研究所紀要』第50号
	2018年3月「松山高吉の日本組合基督教教会からの離脱—海老名弾正との関係を中心に」『アジア・キリスト教・多元性』第16号
	2018年7月「海老名弾正と賀川豊彦の社会思想比較—時代を超えた二人の論争をめぐる」【査読あり】『キリスト教史学』第72号
	2019年3月「海老名弾正の黒住教理解」『アジア・キリスト教・多元性』第17号
	2020年3月「韓国キリスト者の『土人』概念の内面化—欧米と日本の帝國的近代性の錯綜過程としての自他認識」【査読あり】、『東アジアの思想と文化』第11号、東アジア思想文化研究会(立命館大学)、25-43.
	2021年3月「海老名弾正の「会衆主義」理解とデモクラシー論の展開」、『アジア・キリスト教・多元性』第19号第2集、5-21.
	2022年3月「帝国神道的キリスト教の形成と三位一体的の神道理解—15年戦争期における海老名弾正・渡瀬常吉・大谷美隆を中心に—」、『アジア・キリスト教・多元性』第20号、5-32.
	2022年3月31日(印刷物は7月発行)、「芦名武雄の神道理解 —神官出身キリスト者の戦時下における宗教思想を中心に—」【査読あり】、『基督教学研究』第41号、京都大学基督教学会、101-126。
	2022年9月、【シンポジウム発表論文】「金教臣の『全的キリスト教』と内村鑑三：創造的継承としての一事例」、『日本の神学』第61号、日本基督教学会、187-193。
(その他、書評・雑誌、コラムなど)	
2009年9月号「ペンが刀より強い！—信仰と勇気のエプワース(Epworth)青年、李吉用(1)」『基督教世界』第946号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載	
2009年10月号「ペンで国を救おう！—信仰と勇気のエプワース(Epworth)青年、李吉用(2)」『基督教世界』第947号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載	
2009年11月号「上海と祖国との伝令使、李明済牧師(1)」『基督教世界』第948号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載	
2009年12月号「使徒ルカの後裔、李明済牧師(2)」『基督教世界』第949号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載	
2010年1月号「メソジスト教会牧師の模範、李明済牧師(3)」『基督教世界』第950号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載	

研究実績	2010年2月号「東アジアの永遠な友、ランバス(1)」『基督教世界』第951号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年3月号「韓国における南メソジスト教会の開拓者、ランバス(2)」『基督教世界』第952号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年4月号「同胞のため祈りなさい、ランバス(3)」『基督教世界』第953号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年5月号「私はずっと見守っている! (I shall be constantly watching!)、ランバス(4)」『基督教世界』第954号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年6月号「ベーツ(Bates C. J. L.)と彼の弟子たち(1)」『基督教世界』第955号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年7-8月号「ベーツ(Bates C. J. L.)と彼の弟子たち(2)—『奉仕する延世大学』の定礎者、朴大善」『基督教世界』第956号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年9月号「ベーツ(Bates C. J. L.)と彼の弟子たち(3)—実践する知性人、洪顯高」『基督教世界』第957号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年10月号「1910年を眺めた第3の死線—ハールバット・ハリス・ランバス」『基督教世界』第958号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年11月号「浅川兄弟の韓国への愛—韓国の土になった日本人キリスト者(1)」『基督教世界』第959号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2010年12月号「浅川兄弟の信仰と生涯—韓国の土になった日本人キリスト者(2)」『基督教世界』第960号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	「楊花津外人墓地に葬られた曾田嘉伊智夫婦—韓国の土になった日本人キリスト者(3)」2011年1月号『基督教世界』第961号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2011年2月号「日韓の平和を導いた使徒、曾田嘉伊智夫婦—韓国の土になった日本人キリスト者(4)」『基督教世界』第962号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2011年3月号「車美理婦人(1): 3.1独立運動と女性解放運動は一つ!」『基督教世界』第963号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載
	2011年4月号「車美理婦人(2): 女性解放運動と徳成女子大学の揺籃、韓国メソジスト教会」『基督教世界』第964号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載

2011年5月号「牧園神学の伝統における隠された開拓者たち(1)—シャープ宣教師からレーンズ監督まで」『基督教世界』第965号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載

2011年6月号「牧園神学の伝統における隠された開拓者たち(2)—スウェーラー(W.C.Swearer)、アーメント(C. C. Amendt)、徐太源の神学への情熱」『基督教世界』第966号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載

2011年7-8月号「牧園神学の伝統における隠された開拓者たち(3)—都益瑞(Charles D. Stokes)、徐偉廉(Shaw, William Earl)とレーンズ(Richard Raines)の神学教育」『基督教世界』第967号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載

研究実績	<p>2011年9月号「徐偉廉(Shaw, William Earl)とレーンス(Richard Raines)監督の農村教会への愛:仁友学舎と大田牧者館の物語」『基督教世界』第968号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載</p>
	<p>2011年10月号「許吉來(Howard, Clara)宣教師の農村教会への愛:大田保育大学と明德学舎の物語」『基督教世界』第969号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載2011年12月号</p>
	<p>「松本卓夫(1)- 玄海灘を渡り、朝鮮に来る」『基督教世界』第971号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載</p>
	<p>2012年1月号「松本卓夫(2)- 朝鮮の青年たちと出会う」『基督教世界』第972号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載</p>
	<p>2012年2月号「松本卓夫(3)- 朝鮮のキリスト教教育のみは守って行きたい」『基督教世界』第973号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載</p>
	<p>2012年3月号「松本卓夫(4)- 平和を造って行く人」『基督教世界』第974号、基督教大韓監理会、「歴史に痕跡を残したメソジスト教会の人物」連載</p>
	<p>2013年3月25日「書評:『基督教思想』編『原子力とわたしたちの未来:韓国キリスト教の視点から』『キリスト教学研究室紀要』、第1号、京都大学文学研究科</p>
	<p>2014年3月25日「書評、『天皇制国家と女性:日本キリスト教史における木下尚江』(教文館、2013)『キリスト教学研究室紀要』京都大学文学研究科</p>
	<p>2015年1月2日「한국 그리스도인들의 중층적 차별의식, 그 모순의 형성사」(韓国キリスト者の中層的差別意識、その矛盾の形成史)『기독교사상』(基督教思想)第673巻、ソウル、大韓基督教書会</p>
	<p>2016年11月「『世越(セウォル)号』が引き戻した『歲月(セウォル)』- この「世」を「越」えるための一座を目指す-』『キリスト教文化』第6号、2015年秋号、かんよう出版2015年10月31日</p>
	<p>2016年秋号「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(一)十字架上の新月」『キリスト教文化』第8号、かんよう出版</p>
	<p>2016年12月「최태민·최순실의 국정농단과 우리 신앙의 자세」(崔太敏・崔順實の国政壟断とわたしたちの信仰姿勢)『基督教世界』(The Christian World)、基督教大韓監理会</p>
	<p>2017年3月「한밭 대전의 3.1정신과 감리교 신앙」(大田の3.1精神とメソジスト信仰)『基督教世界』(The Christian World)、基督教大韓監理会</p>
	<p>2017年5月31日「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(二)三つ葉のクローバ(Shamrock)と三位一体」『キリスト教文化』第9号、2017年春号、かんよう出版</p>
<p>2017年12月25日「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(三) 三足烏の東征、八咫烏の西征」『キリスト教文化』第10号、2017年秋号、かんよう出版</p>	
<p>2018年2月「일본에서 바라본 ‘혼밥」(日本から見た「個食・孤食」)『새가정』(新家庭)第65巻第707号、2018年2月号</p>	
<p>2018年6月1日「『복음과 세계』편집 동향, 2018년 1-4월」(『福音と世界』編集動向2018年1-4月号)『기독교사상』(基督教思想)第714巻、2018年6月号</p>	
<p>2018年6月23日「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(四) 菊と刀か、菊と平和か」『キリスト教文化』第11号、2018年春号、かんよう出版</p>	



研究実績	<p>2018年9月1日『『복음과 세계』편집 동향, 2018년 5-7월』(『福音と世界』編集動向2018年5-7月号) 『기독교사상』(基督教思想)第717卷、2018年9月号</p> <p>2019年9月号「君が代を聞きながら守る主日礼拝-時論:揺れる日韓関係におけるキリスト者の役割」『基督教世界』第1056号、基督教大韓監理会</p> <p>2018年12月「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(五) 『烏飛梨(李)落』の日韓関係史」『基督教文化』第12号、2018年秋号、かんよう出版。</p> <p>2019年9月「일본의 역사·사회 교과서 속에 그려진 한국」(日本の歴史・社会教科書に描かれた韓国)、『기사연리포트』(基社研レポート)、第11号、韓国基督教社会問題研究院(ソウル)、2019年9月26日。</p> <p>2019年6月「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(六) 『李花と菊の間に牡丹の花が咲く』」『基督教文化』第13号、2019年春号、121-130.</p> <p>2019年12月「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(七) 朝鮮半島における『焼印』、鎮海と羅南(上)」『基督教文化』第14号、2019年秋号、234-253.</p> <p>2020年6月「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(八) —朝鮮半島における『焼印』、鎮海と羅南の旭日街道(下)」、『基督教文化』第15号、2020年春号、149-166.</p> <p>2020年9月「書評: ミラ・ゾンターク編『〈グローバル・ヒストリー〉の中のキリスト教——近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』」『日本の神学』第59号、102-107.</p> <p>2020年10月「〈書評〉東アジア・キリスト教研究における思想と歴史のコンシリエンス —芦名定道著「キリスト教研究叢書」全3巻の紹介—」『アジア・キリスト教・多元性』第19号第1集、39-48.</p> <p>2020年1月「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(九) —ソウルと釜山、蛮勇と無知の旭日街道」、『基督教文化』第16号、2020年秋号、50-66.</p> <p>2021年4月18日、【連載・コラム: 東アジアのリアル】「増加する韓国キリスト教の若い『カナン信徒』」、『キリスト新聞』</p> <p>2021年9月15日、「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(10) —朝鮮の心臓に移植した菊花、そして八紘一宇」、『基督教文化』第17号、132-153.</p> <p>2021年12月1日、「일본 극우의 탄생과 종교적 배경」(日本極右の誕生と宗教的背景)、『기독교사상』(基督教思想) 第756号、26-37. 【韓国語】</p> <p>2021年12月25日、「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(11) —『同床異夢』という日韓シンボル史」、『基督教文化』第18号、198-209.</p> <p>2021年10月21日、【連載・コラム: 東アジアのリアル】「【東アジアのリアル】 暗闇の子どもたちを偲ぶ」、『キリスト新聞』</p> <p>2022年5月11日、「【東アジアのリアル】 2030男女の分断、そして狭間に置かれた性的少数者たち」『キリスト新聞』。</p> <p>2022年9月号、「大日本帝国は「神の国」だったのか」、『福音と世界』77(9)、12-17。</p> <p>2022年10月31日、「シンボルから再発見する日韓の歴史と宗教(一二) 桐紋の苦々しさと悲しさ」、『基督教文化』第19号、66-84。</p> <p>2022年12月1日、「【東アジアのリアル】『我哀しむ故に我在り』の不在を考える——梨泰院雑踏事故を受けて」、『キリスト新聞』。</p> <p>(3) その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p>
	競争的資金採択課題

学会等発表・役員参加	2004年～ 2010年	(学会発表・講演など) 2004年7月「李承晩の基督教思想研究—制憲と政府樹立過程に反映された彼の思想を中心に」 「今月の監理教(メソジスト教会)の人物」発表会、監理会神学大学(ソウル) 2006年2月4日「アンダーウッドの教会と国家(Church & State)認識」第241回韓国基督教歴史学会学術発表会、韓国基督教歴史研究所(ソウル) 2007年12月8日「韓国近代憲法の形成とキリスト教」、法と社会理論学会第一回後続世代学術大会、高麗大学 2008年2月2日「アンダーウッド夫人狙撃事件の真相と意味」第261回韓国基督教歴史学会学術発表会、韓国基督教歴史研究所(ソウル) 2009年8月17日「近代アジアの宗教象徴体系の変容過程に関する研究—韓国及び日本の国家象徴体系との相互作用を中心に」第1回東アジア宗教文化学会国際学術大会、北海道大学 2010年10月7日「日本YWCAの日韓キリスト教關係史的意味—朝鮮YWCAの初期設立過程を中心に」第7回日韓YWCA協議会：日韓YWCA歴史セミナー、韓国YWCA連盟(ソウル)
	2013年	2013年1月21日「宣教師研究の東アジアの観点—W.R.ランバスの事例を中心に」成均館大学—山東大学2013年国際学術大会、山東大学外国語学院 2013年1月26日「韓国プロテスタント・キリスト教史の研究傾向考察」東アジアキリスト教交流史研究会第1回ワークショップin 神戸、神戸学生青年センター 2013年3月10日「海老名弾正の神道理解—神道の類型論的分析を中心に」日本基督教学会近畿支部会、神戸国際大学 2013年9月10日「海老名弾正をめぐる「神道的キリスト教」論争の再考察」日本基督教学会第61回学術大会、西南学院大学
	2014年	2014年9月9日「松山高吉と海老名弾正の神道理解の比較分析」日本基督教学会全国大会、関西学院大学 2014年9月20日「松山高吉と植村正久との信頼関係とその意味」キリスト教史学会、同志社大学 2014年3月28日「松山高吉の日本組合教会からの離脱と海老名弾正」日本基督教学会近畿支部会、京都大学 2014年7月26日「日清・日露戦争時期における韓国キリスト教の日本認識」第4回東アジアキリスト教交流史研究会、「世紀転換期と東アジアのキリスト教—日清・日露戦争をめぐる」シンポジウム、福岡女学院大学 2014年11月22日「일본 초기 그리스도인의 신도 이해와 자기신학화—마츠야마 다카요시와 예비나단조를 중심으로」(日本の初期キリスト者の神道理解と自己神学化—松山高吉と海老名弾正の比較を中心に) アジアキリスト教史学会(韓国)秋季学術大会、長老会神学大学(ソウル)
	2015年	2015年1月10日「무단통치기 한국 기독교인의 일본 인식—내지(内地) 개념으로 본 유형론적 검토」第331回韓国基督教歴史学会学術発表会、韓国基督教歴史研究所(ソウル) 2015年2月13日「松山高吉研究の現況と課題」同志社人文科学研究所社会キリスト教社会問題研究会(CS)研究発表、同志社大学 2015年3月7日「武断統治期(1910-1919)における韓国キリスト者の日本認識—「内地」概念の受容過程を中心に」キリスト教史学会西日本部会、関西学院梅田キャンパス 2015年7月11日「近代日本キリスト者における神道理解の類型論—その全体像と研究の展望」京都大学基督教学会研究発表会、京都大学 2015年3月26日「高橋五郎の神道理解—『神道新論』・『諸教便覧』を中心に」日本基督教学会近畿支部会、神戸女学院大学

学会等発表・役員参加	2015年	<p>2015年8月1日「東アジアにおけるラトゥーレット(K. S. Latourette)の受容過程とその認識—日中韓三国を中心に」東アジアキリスト教交流史研究会、明治学院大学</p> <p>2015年9月4-6日「朝鮮半島における聖書翻訳再考察—キリスト教受容者の立場を中心に」日本宗教学会:パネル発表、創価大学</p> <p>2015年9月11日「近代日本キリスト者における神道理解の類型論とその歴史的意義」日本基督教学会第63回学術大会、桜美林大学</p> <p>2015年10月10日「에비나단조의 자유주의 신학 수용과 신도 이해 — 한국 기독교와의 관련성을 중심으로」(海老名弾正の自由主義神学受容と神道理解-韓国キリスト教との関連性を中心に) 第339回韓国基督教歴史学会学術発表会、韓国基督教歴史研究所(ソウル)</p>
	2016年	<p>2016年9月11日「松山高吉の伝統宗教理解—「神道・儒教・仏教」三教を中心に」日本宗教学会第75回学術大会パネル発表、早稲田大学</p> <p>2016年9月14日「海老名弾正の会衆主義と吉野作造のデモクラシー」日本基督教学会第64回学術大会、広島女学院大学</p> <p>2016年10月 28-29日「일본 기독교 유적의 특수성과 보편성 - 한일 기독교 유적의 특성 비교와 해설 사례를 중심으로」(日本キリスト教遺跡の特殊性と普遍性—日韓キリスト教遺跡の特性比較と解説事例を中心に—) アジアキリスト教史学会(韓国)国際セミナー(テーマ: Christianity and Communication : History and Prospect)、韓国学中央研究院韓国学融合研究センター(ソウル)</p> <p>2016年11月5日「문화통치기(1920-30) 한국 기독교인들의 '내지=일본' 인식」(文化統治期(1920-30)における韓国キリスト者の『内地=日本』認識) 第350回 韓国キリスト教歴史学会学術発表会、韓国キリスト教歴史研究(悦松齋、ソウル)</p>
	2017年	<p>2017年3月4日「海老名弾正の植民地民理解—吉野作造・石川三四郎の『土民』概念との比較を中心に」第11回キリスト教史学会西日本部会、関西学院大学梅田キャンパス(大阪)</p> <p>2017年9月15日「海老名弾正と賀川豊彦の社会思想比較—時代を超えた二人の論争をめぐって」キリスト教史学会、聖心女子大学</p> <p>2017年10月6日 「『内地』とは何か—日韓キリスト者の認識と比較—」第五回南山宗教研究会 (南山大学)、南山宗教文化研究所</p>
	2018年	<p>2018年 3月 6日「松山高吉の説教から見た神学思想—『聖書講義並講演』(1880-1886)を中心に」2018年度明治学院大学キリスト教研究所3月研究会、明治学院大学</p> <p>2018年3月26日「海老名弾正と中島重の『神の国』理解」日本基督教学会近畿支部会、同志社大学</p> <p>2018年9月12日「海老名弾正の弟子たちの神道理解—吉野作造・柏木義円・石川三四郎・中島重を中心に」第66回日本基督教学会、南山大学</p>
	2019年	<p>2019年3月31日「松山高吉の宗教理解と聖書翻訳事業」信濃町教会研究助成報告及び講演会、日本キリスト教団信濃町教会</p> <p>2019年4月4日「日韓関係とアジアの未来:『内地』概念の変遷をめぐって」「アジア共同体論」学部授業の特別講義、聖公会大学(ソウル、ミカエル館301号室)</p> <p>2019年5月23日「明治学院研究①-植村正久」、明治学院研究①【学部授業の講義】、明治学院大学白金台キャンパス2号館 2101教室</p> <p>2019年10月25日「記憶と継承-日韓キリスト教遺跡の比較 -」2019年アジア神学セミナー【講義】明治学院大学81会議室</p> <p>2019年10月26日「日韓キリスト者の「土人」概念の内面化過程—帝国日本の海老名弾正と植民地キリスト者との比較を中心に—」企画研究会「帝国日本のキリスト教とその周辺」(東アジア思想文化研究会、科研費基盤研究(C))、立命館大学 衣笠キャンパス学而館第一講義室</p>

学会等発表・役員参加	2019年	2019年11月12日「3.1独立運動100年と日韓関係とアジアの未来:『内地人』と『土人』概念をめぐって」「アジア平和共同体論」学部授業の特別講義、協成大学(韓国・水原)
	2020年	「19-20世紀朝鮮半島における日米キリスト者の移住と伝播」、『移住と伝播—アジア太平洋地域におけるキリスト教関連資料、およびその活用』ワークショップ、アジア太平洋地域キリスト教関連資料活用ネットワーク、2020年1月11日(土)、1時30分—18時、京都大学文学研究科・第6講義室
	2021年	「金教臣の『全的キリスト教』と内村鑑三:創造的継承としての一事例—」、「第69回、日本基督教学会学術大会シンポジウム、「内村鑑三と日本のキリスト教」(オンライン開催) 2021年9月8日)
	2022年	2023年1月6日(金)、10:00~17:20【研究発表】「日本における韓国学(朝鮮学)研究の動向と性格—学会及びジャーナルの分布・傾向性の分析を中心に—」、「成均館大学東アジア学術院-湖南师范大学東北アジア研究中心-第3回共同国際学術会議」『テーマ:東アジアにおける韓国学、その過去と未来』(동아시아에서의 한국학, 과거와 미래)、オンラインZOOM 会議及び成均館大学校600周年記念館504号。(主催:成均館大学校東アジア学術院HK+研究所)
受託共同研究の実績	2006年 4月	『恵星教会25年史』(単著)、ソウル:基督教大韓監理会恵星教会
	2008年 11月	『大田第一教会100年史』(共著)、大田:基督教大韓監理会大田第一教会
	2015年 6月	『信仰の足跡を訪ねて:日本関東・関西のキリスト教遺跡』(민음의 흔적을 찾아:일본 간토·간사이 편)ソウル:韓国基督教歴史研究所共同研究プロジェクト
	2015年 9月	「朝鮮半島における聖書翻訳再考察—キリスト教受容者の立場を中心に」日本宗教学会パネル発表(創価大学)
	2016年 9月	「松山高吉の宗教及び神学思想と聖書翻訳の再評価」日本宗教学会第75回学術大会パネル発表、早稲田大学(日本基督教団信濃町教会研究助成)
大学院生指導	特になし	
対研究する能力に	概ね高い評価を得ている。	

### サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2020年 4月	宗教委員会、大学運営評議会、個人情報保護委員会、ハラスメント防止委員会
アドバイザー活動実績	特になし	
後進育成活動実績	特になし	

社会 貢 献 活 動	(1)講演会
	2012年 9月11日 「近くて遠い国、こんなに違う日韓の習慣」、午後1時-3時、関西学院高等部3階大会議室、関学高等部育友会国際交流部主催
	2013年 11月17日 アジアサンデー集会 ～韓国併合は終わったのか：植民地時代が日韓キリスト教会に残した問題」午後2:30-4:30、日本基督教団兵庫教区播州地区地区社会部主催、(場所：姫路教会)
	2019年 3月31日 「松山高吉の宗教理解と聖書翻訳事業」、信濃町教会研究助成報告及び講演会 日本キリスト教団信濃町教会
	2020年 1月 「私と日本、そして日本のキリスト教」、山梨県教会一致懇談会教会一致祈禱会」、2021年1月23日(土)、カトリック甲府教会、日本基督教団甲府教会
	2021年 3月 「日本の歴史と東アジアとの関係(1)―中華思想の崩壊と内地の誕生」、 「日本の歴史と東アジアとの関係(2)―土人の誕生と中層的差別構造の内面化」、釜山基督教倫理実践運動、福音主義フォーラム2.0、フォーラ&アカデミー東京主催、2021年3月22日(1回目)、29日(2回目) zoomによる講演会。
	2021年 7月 「日本の近代社会形成とキリスト教」(일본 근대사회 형성과 기독교)、 『2021年夏季特別講義―東アジアの近代性とキリスト教』、キリスト教政治社会研究所(Somium,ソウル)、2021年7月15日(木)19:00-22:00、zoom。
	(2)出前講座
	(3)公開講座
	2016年 1月11日 「隣人として、家族として、生きる」、第32回 日韓交流信徒大会、日本基督教団兵庫教区・在日大韓基督教会西部地方会共同主催、講演会
	2016年 2月11日 「近代日本キリスト者の神道理解-神道と信教の自由との関係は?」、午前10:00-12:30、日本基督教団京都教区両丹地区委員会、「信教の自由を守る日」講演会 丹波新生教会亀岡会堂、日本基督教団東京教区 信濃町教会講演会
	(4)学外審議会・委員会等
	(5)その他
	2019年 4月4日 「日韓関係とアジアの未来：『内地』概念の変遷をめぐって」、「アジア共同体論」学部授業の特別講義 聖公会大学(ソウル、ミカエル館301号室)
	2019年 5月23日 明治学院研究①-植村正久」明治学院研究①【学部授業の講義】明治学院大学白金台キャンパス2号館 2101教室
2019年 10月25日 「記憶と継承-日韓キリスト教遺跡の比較」、2019年アジア神学セミナー【講義】明治学院大学81会議室	
2019年 11月12日 「3.1独立運動100年と日韓関係とアジアの未来：『内地人』と『土人』概念をめぐって」、「アジア平和共同体論」学部授業の特別講義、協成大学(韓国・水原)	

## 成果と目標

専門的成果	韓国および日本のキリスト教史を主に研究してきたため、欧米宣教師による開拓伝道と初期キリスト者たちの歴史をアジア的な観点に基づいて分析・説明することが可能である。 また、学部時代に神学のみならず法学を専攻したため、社会思想史的なアプローチを試みることによって、キリスト教と社会、そして教会と国家などの問題に至るまで幅広く扱うことができる。
専門的目標	①欧米人の観点ではなく、アジア人の観点と立場からキリスト教史と思想について新たな解釈の地平を拓くこと。 ②キリスト教神学以外にも歴史学、文学、人類学、社会学、法学など隣接する学問分野との学際的かつ立体的研究を行うことによって人文学領域における幅広い視野を提供すること。 ③変化する世界において、キリスト教神学及び歴史研究がどのような現代的意味と可能性を持つのかを究明すること。

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------